

デジタルアーカイブ入門

2017 8/5

地域学習「信州学」の調査・資料収集
長野大学 市川正夫

I 教科書の目次に注目

- 教科書『高等学校 地理 A』帝国書院
 - 教科書『高等学校 日本史 A』山川出版
- 支柱になるものとして教科書にベースにする

1例

『改訂版 やさしい長野県の教科書地理』しなの木書房

I 長野県の自然環境

II 長野県の産業と生活

III 各地域に見る長野県

IV 日本の中の長野県

①プロットをつくってみよう
―長野県 of 自然環境

第一章 地形

第二章 気候

第三章 水資源とくらし

第一章 地形

1フォッサマグナと日本アルプス

2火山と高原

3河川に沿う盆地と丘陵

4地形・気候による自然災害

長野県の自然環境(1)地形

1 フォッサマグナと日本アルプス

第一の命題

「かつて長野県の三分の二は海であった」

※広く知られているが、なぜか不明なことに注目

Q1 フォッサ・マグナってなに

- ・ラテン語

 - フォッサとは溝・地溝帯

 - マグナとは大きな

- ・命名したのは

 - ドイツの地質学者

 - エドムント・ナウマン

- ・『日本地質構造論』1885年刊で発表

Q2 ナウマンはかつて日本の中央部が 海底にあったことを発見したのはなぜ



エドムント・ナウマン
1854～1927年。ドイツ
のマイセンに生まれ
る。日本での10年間で、
東京大学教授、地質調
査所の技師長を務め、
日本の地質学の教育と
研究に大きな貢献を果
たした。*

ナウマンが東京から山梨県、
長野県の野辺山(南牧村)の
平沢に来て、八ヶ岳がなだら
かであったが、南アルプスが
あまりにも高い壁でどうしてこ
のような違いがあるのかと疑
問に思った

フォッサ・マグナの範囲ははっきりわかっていない。西縁は明確だが、東縁は未定。



- Q3フォッサ・マグナが見れる場所があるが
糸魚川・静岡構造線の断層路頭(新潟県糸魚川市)
- ・中央に断層破碎帯(ここは2mで、数mから数十m)
 - ・左は約2.6億年前の変ハンレイ岩、
 - ・右は1600万年前の安山岩層



地質年代

新生代	第四紀		全新世	1万
	第三紀		更新世	175万
中生代	白堊紀	1.46億	鮮新世	520万
	ジュラ紀	2.08億	中新世	2330万
	三疊紀 (トリアス紀)	2.45億	漸新世	3540万
古生代	二疊紀 (ペルム紀)	2.90億	始新世	5650万
	石炭紀	3.63億	晩新世	6500万
	デボン紀	4.09億		
	シルル紀	4.39億		
	オルドビス紀	5.1億		
	カンブリア紀	5.7億		
原生代		24.5億		
始生代		46億		

フォッサマグナの海の移り変わり 1

海 陸



フォッサマグナの地域が落ち込んで、海水が進入し、フォッサマグナの大部分は海になりました。



フォッサマグナの海の中央部が隆起して、北と南のフォッサマグナの海に分かれました。



フォッサマグナの北の海は、どんどん深くなり、水深3000mほどの海になりました。



フォッサマグナの北の海は、深い海でしたが、陸地から運び込まれた土砂で浅くなっていきます。

Q4-1長野県が海であった証拠とは
ホタテガイの化石
戸隠地質化石博物館(長野市)



Q4-2石油がでるとはということ
長野市芋生の裾花川で原油が流出しているが
1847年(弘化四)の善光寺地震による。周辺では灯火に利用



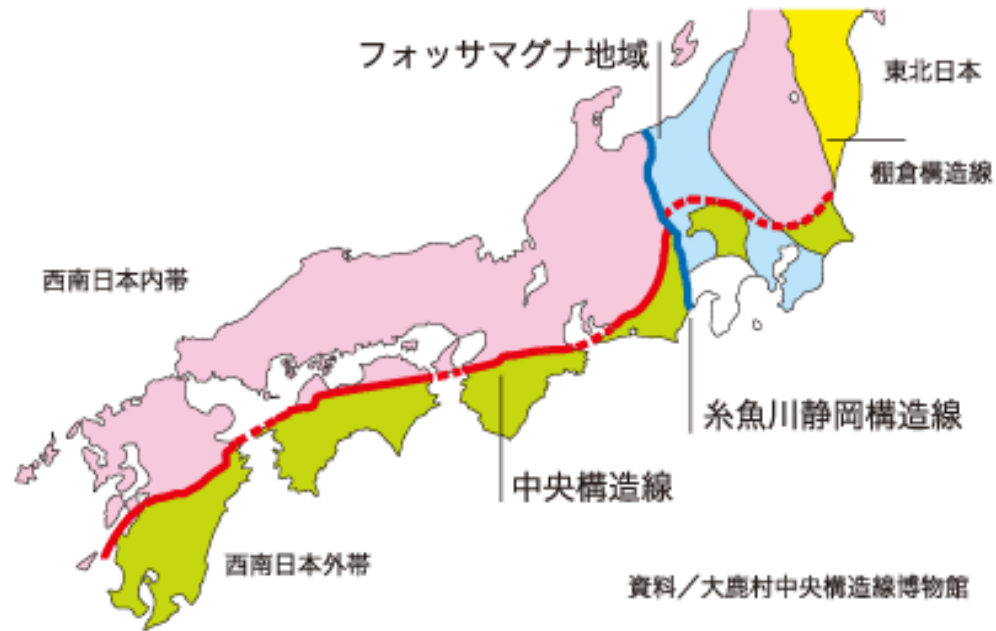
Q4-3 明治期長野では石油が売られていた
長野市真光寺の油田のポンプ跡



Q5 フォッサ・マグナで日本を 東西に分けるとは

- ・東は根深ネギ、西は葉ネギ
 深谷ネギ、松本一本ネギ、京ネギ
- ・谷の意味の読み方は、東では「や」、西では「谷」
- ・町名の読み方は、東では「まち」、西では「ちょう」
- ※但し長野県では阿南町(あなちょう)

Q6 日本を二つに分けるフォッサ・マグナ(東西)と中央構造線(南北)とは



第二の命題

長野県には日本を地形で二つに分ける裂け目がある

これが活断層地震と関係している

1フォッサ・マグナ

2中央構造線

大項目・中項目・小項目

- 大項目は教科書等にあり
- 中・小項目は調査地域に応じて考える
- 項目に沿った地域の特色を調べる
 - ①今まで知られていないこと
 - ②不思議なこと
 - ③なぜと思えること等

例

- なぜ信濃には有力大名がいなかったのか
- 長野県の二大都市である長野と松本の関係とは
- なぜ長野県は教育県と言われているのか
- 佐久間象山は「ぞうざん」か「しょうざん」のどちらか

知の拠点としての図書館

信州学の調査・資料収集 文献とフィールドワーク

- 『改訂版 やさしい長野県の教科書地理』しなの木書房
- 『ふしぎ発見 長野県地理』しなの木書房
- 『知って わかった 長野と松本のなぜ』信教ネット
- 『フィールドワーク入門』古今書院
- 『信州学大全』信濃毎日新聞社
- 『長野県の歴史』山川出版社 1997

歴史関係が少ない。新しい書籍がでない。

- ※・調査方法や内容等についてその道の達人・プロパーに相談
長野県立歴史館、長野県埋蔵文化財センター、
各市町村の教育委員会
- ・アーカイブの利用、但しフェイクがあるので要注意

お知らせ

•8月11日(金)山の日 19~20時

テレビ番組 NBS長野放送

フォーカス∞信州

「信州のふしぎな界」

※小谷村と糸魚川市との県境未定地

塩尻市小野地区に辰野町の矢彦神社がある

旧碓氷峠にある神社には長野県と群馬県の県境